
学校における避難に関する防災教育事例集 (水害・土砂災害)



内閣府(防災担当)

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 本事例集について | 2 |
| 1.1 本事例集の目的 | 2 |
| 1.2 本事例集作成の経緯と概要 | 2 |
| 2. 事例集作成に協力して頂いた学校について | 3 |
| 3. 本事例集のポイント | 3 |
| 4. 事例その1 (岡山県倉敷市立中洲小学校) | 4 |
| 4.1 小学校区の水害リスク | 4 |
| 4.2 防災教育に関する倉敷市の状況 (モデル事業実施時) | 5 |
| 4.3 学習指導案 | 5 |
| 4.4 指導内容 (3時限) | 7 |
| 4.5 教材 | 19 |
| 4.6 指導を終えて | 19 |
| 5. 事例その2 (高知県本山町立吉野小学校) | 20 |
| 5.1 小学校区の水害リスク | 20 |
| 5.2 防災教育に関する本山町の状況 | 21 |
| 5.3 学習指導案 | 21 |
| 5.4 指導内容 (3時限) | 23 |
| 5.5 教材 | 33 |
| 5.6 指導を終えて | 34 |
| 6. 今後の課題 | 34 |

1. 本事例集について

1.1 本事例集の目的

水害や土砂災害が広域かつ甚大に発生し、平成に入り最大の人的被害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨を受け、激甚化・頻発化する豪雨災害に対し避難対策の強化を検討するため、中央防災会議防災対策実行会議の下に、「平成 30 年 7 月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」が設置され、平成 30 年 12 月 26 日に「平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)」がとりまとめられました。本報告では、住民が「自らの命は自らが守る」意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援する、それらにより、住民主体の取組強化による防災意識の高い社会が構築できるよう、今後実施すべき対策が提言されています。

本事例集は、平成 30 年 12 月にとりまとめられた平成 30 年 7 月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ報告書の中に示された、「学校における防災教育・避難訓練」の推進に資するため、小・中高生の水害・土砂災害からの避難に関する理解のために、事例(訓練を含む授業の内容)を提供し、また、小中学校における防災教育に役立つことを目的に作成しています。¹

1.2 本事例集作成の経緯と概要

本事例集作成の経緯と概要は、以下のとおりです。

- 平成 29 年の水防法及び土砂災害警戒区域等における土砂災害の推進に関する法律の改正、また「平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)」に今後取り組むべき課題として示されたことを受けて、文部科学省、国土交通省連名で自治体教育関係部局向け、要配慮者利用施設に位置付けられた小・中学校等については避難確保計画の作成、避難訓練と併せた防災教育実施の指導依頼を行いました。
- 本件の関係省庁は、内閣府、文部科学省、国土交通省、並びに気象庁で本件の進め方について協議を行いました。
- その後、洪水氾濫からの避難と土砂災害からの避難に関する防災学習を行うためのモデル校の選定を行いました。
- モデル校を管轄する教育委員会並びモデル校の教員の方達と、学習計画の内容と利用する教材について協議を進め、公開授業として実施しました。
- この公開授業に向けて作成した、学習計画と、教材を事例集としてとりまとめました。

¹ 「巻末資料・参考資料」の参考資料-1 に、本件の背景となる通達「水防法又は土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律に基づく避難確保計画の作成及び訓練の実施の徹底について」を添付。

2. 事例集作成に協力して頂いた学校について

水害、土砂災害のそれぞれについて、災害リスク内にある学校として、以下の学校の関係者の方にご協力をいただき、学校の教職員、県・市町の教育委員会、及び関係行政機関で学習の計画、教材の作成について検討し、事例集として取りまとめました。

| 学校名 | 対象学年 | 対象災害 | 学校区の災害リスク |
|----------------------|------------|------|--|
| 岡山県 倉敷市立 中洲小学校 | 5年生 | 洪水氾濫 | 高梁川下流部の左岸側に位置しており、学校区のほぼ全域が想定氾濫となっている。 |
| 高知県 本山町立 吉野小学校 | 5年生 6年生 | 土砂災害 | 学区内に多くの土砂災害警戒区域がある。 |

3. 本事例集のポイント

本事例集のポイントは、以下の2点です。

- 行政が発信する避難情報・防災気象情報に基づき、児童が地域のハザードや家族の災害リスク（立地状況や家族構成等）を踏まえ、とるべき避難行動を考えることができるよう、3時間の学習内容に組み立てました。
- 教材については、両市町が作成しているハザードマップ、風水害に関する内容が充実している「防災教育ポータル(国土交通省)」²等を利用することにより、教職員が容易に、準備ができるよう配慮しました。

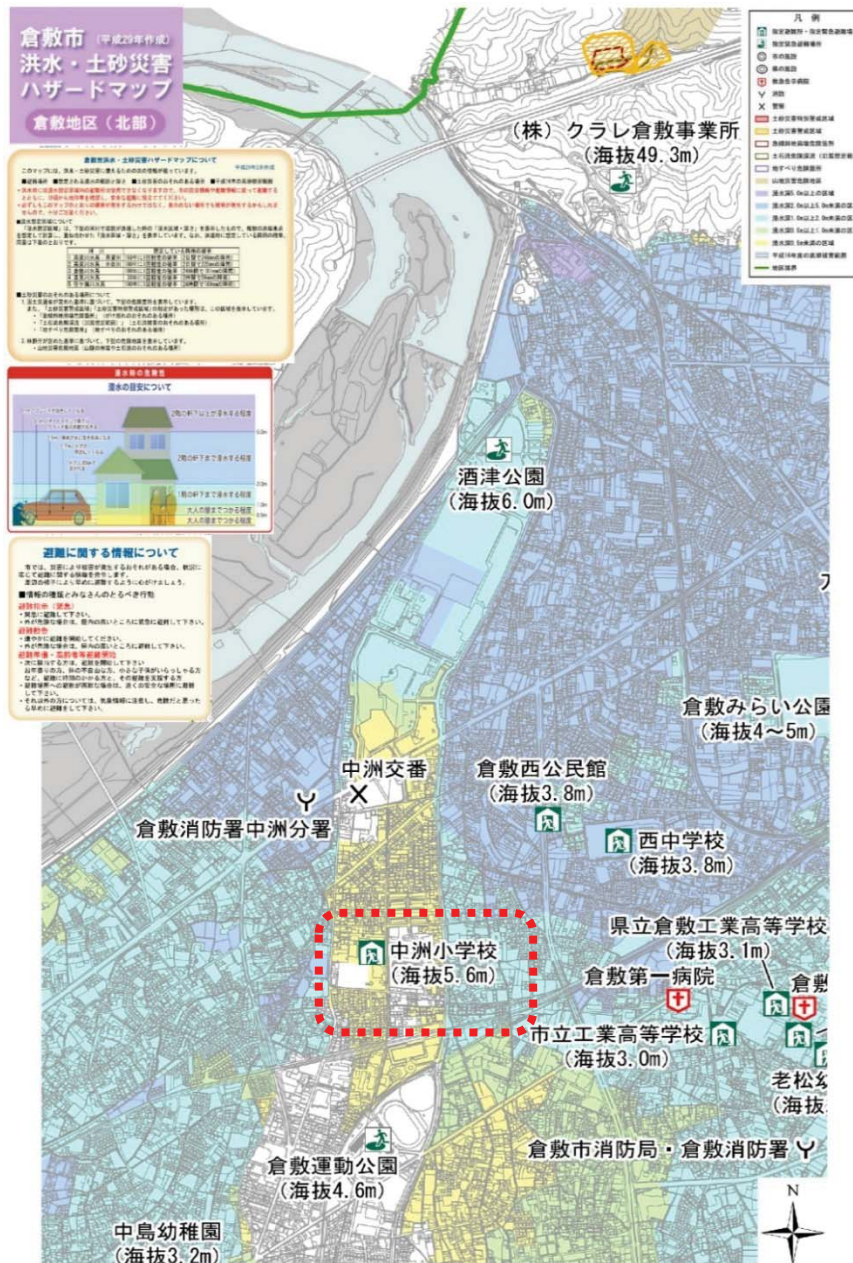
² ホームページの URL : <https://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/>

4. 事例その1 (岡山県倉敷市立中洲小学校)

4.1 小学校区の水害リスク

中洲小学校は、岡山県を流下する大河川、高梁川下流部の左岸側にあります。

この地域は、「倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップ」により、広範囲に浸水することが示されています。



中洲小学校位置図³

³ 背景図の出典：「倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップ 倉敷地区（北部）」を倉敷市教育委員会が、防災教育の為に教材用にレイアウトし、凡例位置を編集したもの。

4.2 防災教育に関する倉敷市の状況（モデル事業実施時）

平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえ、倉敷市は、「平成 30 年 7 月豪雨災害 対応検証報告書」を平成 31 年 3 月に公表しました。市は、この結果を踏まえ、住民への情報提供や周知の在り方、自主的な避難を促進するための検討を行うため「倉敷市災害に強い地域をつくる検討会」を令和元年 9 月 17 日に設置しました。また、倉敷市教育委員会は、洪水氾濫・土砂災害に備えた防災学習に積極的に取り組もうとして企画検討を進めている段階でした（令和 2 年 1 月現在）。

国土交通省中国地方整備局は、マイ・タイムライン⁴の周知活動を積極的に実施しており、令和 2 年度から、倉敷市全域の小学校で、担任の先生によるマイ・タイムラインを取り入れた授業を実施することを、倉敷市教育委員会と調整している状況でした（令和 2 年 1 月現在）。

4.3 学習指導案

本防災教育の位置づけは、地域の洪水氾濫の危険性を知り、これに関わる社会の取組を知ることにより、確実に避難できるような人材の育成することを目的としており、以下の事項を学習指導案として作成しました。

4.3.1 単元名

「災害に備える」（総合的な学習の時間）

4.3.2 指導のねらい（高学年）

マイ・タイムラインの作成を通して、自分の住むまちの災害リスクと取るべき行動を理解し、自分の住むまちの避難場所を確認し、災害時に、自分で考えながら適切に行動できるようにすることとしました。

4.3.3 児童の実態

中洲小学校の児童は、平成 30 年 7 月豪雨の教訓から、洪水・土砂災害に関する防災意識は高いが、いざという時に、地域社会がどのように行動し、また、自分が何をすればよいのかということについては、よく分っていないことが課題である。

4.3.4 学校区の状況

中洲小学校の学区は、県内三大河川の一つである高梁川の近くに位置し、浸水想定区域に含まれる地域が数カ所あるため、豪雨や洪水により甚大な被害が予想される地域であり、水害に対する防災意識の高い地域である。

地域でも社会福祉協議会が自主防災組織設立支援を行い、ほとんどの地区で自主防災組織が設立されています。また、さらに、各地区で防災訓練や、専門家を招いた講習会を開催している状況である。

⁴ 「巻末資料・参考資料」の巻末資料-洪②「逃げキッド」の中に「マイ・タイムライン」の説明がある。

4.3.5 指導計画

| テーマ | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 時間 |
|---------------------|---|---|----|
| マイ・タイムラインをつくろう(3時間) | <ul style="list-style-type: none"> ● 水害から命を守るための方法を考える。 ・川の水が氾濫するまでの過程を知る。 ・ハザードマップについて知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 洪水の仕組みについて理解させ、避難の必要性を実感させる。 | 1 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 水害から命を守るための方法を探究する。 ・逃げキッド⁵を使って事前の備えについて考える。 ・警戒レベル⁶について知り、避難準備行動について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 川が氾濫する前の安全な時期に避難をすることが最良の考え方であることに気付かせ、事前の避難準備の大切さを意識させる。 | 1 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● マイ・タイムラインをつくる。 ・マイ・タイムラインを作成する。 ・図上訓練をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ● マイ・タイムラインを作成する際にはどの情報をもとに考え方を意識させる。 | 1 |

4.3.6 関連する教科書等とのつながり




| | |
|-----|---|
| 社会科 | <p>【第5学年】</p> <p>国土の保全と国民生活(自然条件と災害の種類や発生位置や時期)</p> <p>【第6学年】</p> <p>自然災害からの復旧・復興</p> |
| 理科 | <p>【第5学年】</p> <p>天気の変化・流れる水の働き</p> <p>【第6学年】</p> <p>土地のつくりと変化</p> |

⁵ 「巻末資料・参考資料」の巻末資料-洪②「逃げキッド」のこと。



⁶ 「巻末資料・参考資料」の巻末資料-洪④警戒レベルの解説の中に警戒レベルの説明がある。

4.4 指導内容(3時限)

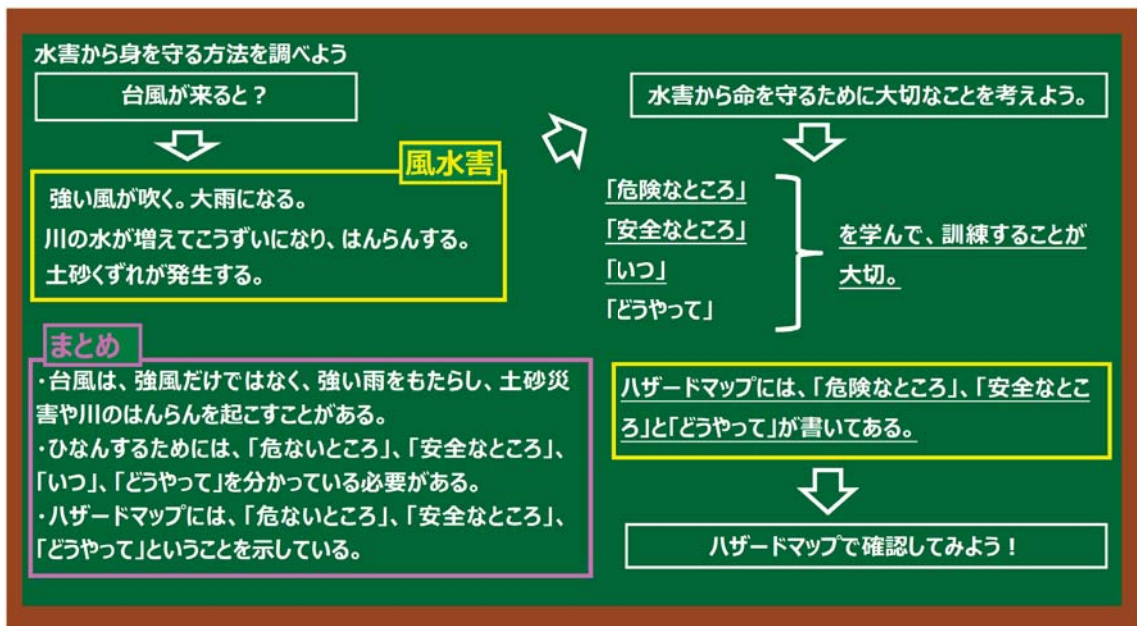
■第1時限

| 目 標 | 地域の災害リスクを把握するとともに、災害時の避難場所や避難方法など、災害から命を守るための知識を身に付けることができる。 | |
|-------------------------------|--|--|
| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ | 教材解説 |
| 1. 過去の身近な災害について知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●写真やその他の資料を提示することで、過去の風水害についてどのようなことがあったのか確認できるようにする(平成30年7月豪雨を振り返る。) ●被災した児童がいる場合は充分配慮する。 | <p>【教材①過去の災害】</p>  |
| 2. 避難することの大切さについて知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●平成30年7月豪雨の甚大な被害を振り返ることで、災害発生時に人的被害を少なくするために必要なことや自分たちができることを、考えられるようにする。 ・情報の収集 ・事前の備え |  |
| <p>水害から命を守るために大切なことを考えよう。</p> | | |
| 3. 「川の水が氾濫する」仕組みを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●川の水が氾濫する過程について、時系列に沿って説明することで、洪水は突然起きるのではなく、起きるまでに時間があることを知り、その間に避難行動ができることに気付けるようにする。 ●時間が経つとともに状況が悪くなることを確認することで、早めの避難行動が命を守ることにつながることに気付くことができるようにする。 ●用水路が多い学区の特徴を確認することで、大きな河川の外水氾濫だけでなく、内水氾濫についても起こる可能性があることを理解させる。 | <p>【教材②-1「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!!】</p>  |

この事例のように、地域の特徴について説明することが大切です。

| | | |
|--|--|--|
| <p>4. ハザードマップについて知る。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>災害リスクととるべき行動の参考として、第1時限の指導内容の後ろに、「避難行動判定フロー」を示しました。</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>安全な場所は、「避難場所」だけではなく、親戚、知人宅という選択肢もあることを伝えましょう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ●ハザードマップは、洪水氾濫の他にも地震・津波等、想定する事象に応じてハザードマップが違うことを認識させる。 ●洪水・土砂災害のハザードマップのよみ方について説明することで、浸水深や指定緊急避難場所が記されていることに気付かせる。 ●学区のハザードマップを提示することで、自分の家が安全かどうかを確認し、災害発生時の避難場所を設定できるようにする。 | <p>【教材③-1 ハザードマップ(倉敷市版)】</p>  <p>【教材③-2 ハザードマップ(中洲学区版)】</p>  |
| <p>5. 本時の学習のまとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●ペアで話し合わせることで、自分の家の災害リスク(危険度)は、どの程度なのか、自分の家の設定した避難場所が適切なのか確認できるようにする。 | |
| <p>6. 本時の学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●板書をもとに、本時の学習で大切なことを確認することで、まとめることができるようにする。 ●本時の学習を振り返り、「川の水が氾濫する」仕組みや、設定した避難場所は一例であり、その時の状況に応じて変わることや、臨機応変に対応することが大切だということに気付かせ、学んだことを家族と話し合うことが重要だと伝えるようにする。 | |
| <p>7. 次時の学習について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●次時は、実際に「いつ」どうやって「逃げればよいのか」自分で考えて行動をとることについて学ぶことを予告する。 | |
| <p>評価</p> | <p>地域の災害リスクを把握するとともに、災害時の避難場所や避難方法など、災害から命を守るための知識を身に付けている。</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】(発言・ワークシート)</p> | |

(第1時限)



第1限目の板書計画

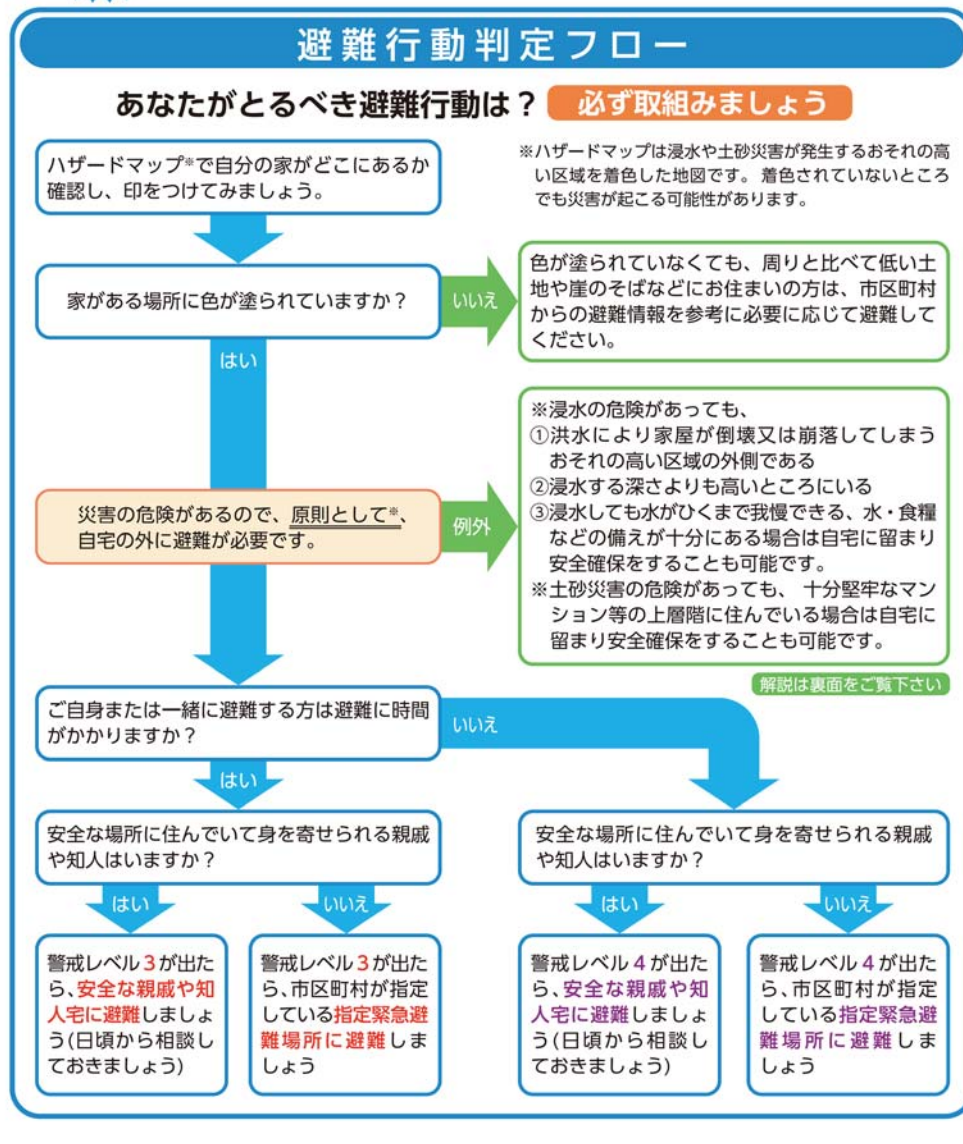


ハザードマップの確認

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時に
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を
確認しましょう。



⁷ 央防災会議 防災対策実行会議「令和元年台風第19号等を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)」避難の理解力向上キャンペーン関連資料

(<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/typhoonworking/index.html>)

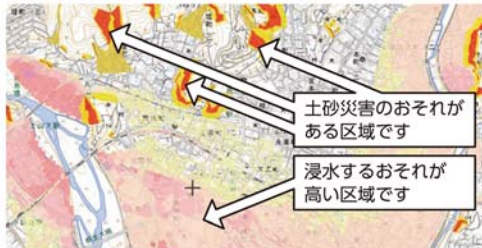
避難行動判定フロー・避難情報のポイント(全4枚)については、「巻末資料・参考資料」の参考資料-2に添付。

(参考資料) 避難行動判定フロー・避難情報のポイント(2枚目(全4枚の内))

避難行動判定フローの参考情報

ハザードマップの見方

必ず確認してください



※ハザードマップの着色や凡例は市町村によって異なる場合があります。

| 水害 | | 土砂災害 | |
|-------------------|-----------------------------|---|--|
| 洪水浸水想定区域 (浸水深) | | 土砂災害警戒区域: 土砂災害のおそれがある区域 | |
| 3・4階 | 5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水) | 土砂災害特別警戒区域: 建造物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域 | |
| 2階 | 3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水) | | |
| 1階 | 0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水) | | |
| 1階床下 | 0.5m未満 (1階床下浸水) | | |

ハザードマップホームページ 検索



ハザードマップの見方

もっと詳しく知りたい人向け

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないか



流速が早いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高いか



③ 水がひくまで我慢できるか、水・食糧などの備えは十分か



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や、③浸水継続時間はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。なお、重ねるハザードマップには記載がありません。

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。



警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう



「避難」とは「難」を「避」けることです
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません



避難先は小中学校・公民館だけではありません
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう

※緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など)

※災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

わからないことがありましたらお住まいの市区町村にお問い合わせください。

(参考) 内閣府防災ホームページ「令和元年台風第19号等による避難に関するワーキンググループ」
<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/typhoonworking/index.html>

小学生向け

台風・豪雨時にそなえてハザードマップといっしょに「ひなん行動判定フロー」を確認しましょう

平時に
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を
確認しましょう。

ひなん行動判定フロー

●あなたがとるべきひなん行動は？

必ず取り組みましょう

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップはしん水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色がぬられていますか？

いいえ

色がぬられていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどに住んでいる場合は、市区町村からのひなん情報を参考に必要な時は、ひなんしてください。

はい

災害の危険があるので、自宅ではなく安全な場所へのひなんが必要※です。

例外

※しん水の危険があっても、
①こうすいにより家屋がたおれり、くずれたりしてしまうおそれがない区域である
②しん水する深さよりも高いところにいる
③しん水しても水がひくまでがまんできる、水・食料などのそなえが十分にある場合は自宅に残り安全確保することも可能です。
※土砂災害の危険があっても、十分がんばりなマンション等の上の階に住んでいる場合は自宅に残り安全確保することも可能です。

自分またはいっしょにひなんする方はひなんに時間がかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいてお世話になることができるしんせきや知り合いの人はいますか？

はい

いいえ

けいかいレベル3が出たら、安全なしんせきや知り合いの家にひなんしましょう(日ごろから相談しておきましょう)

けいかいレベル3が出たら、市区町村が指定している指定緊急ひなん場所にひなんしましょう

安全な場所に住んでいてお世話になることができるしんせきや知り合いの人はいますか？



はい




いいえ

けいかいレベル4が出たら、安全なしんせきや知り合いの家にひなんしましょう(日ごろから相談しておきましょう)

けいかいレベル4が出たら、市区町村が指定している指定緊急ひなん場所にひなんしましょう

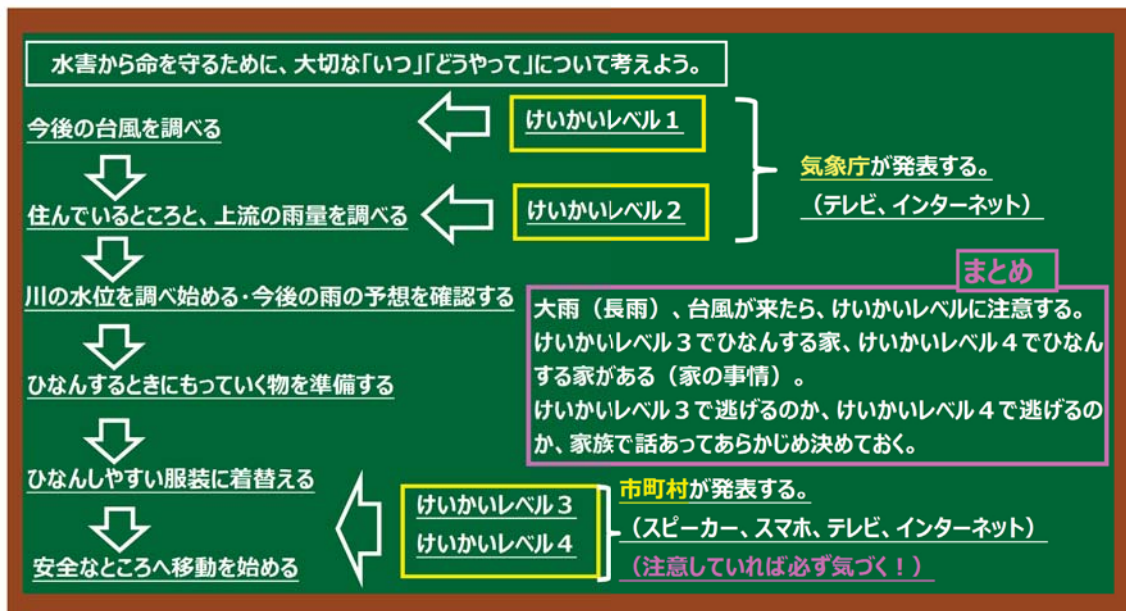
■第2時限

| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ | 教材解説 |
|--|---|---|
| <p>1. ここまで学習してきたことを確認し、本時のめあてをつかむ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●ハザードマップから分かることを振り返ることで、本時の学習内容を理解できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自宅や自宅周辺の浸水リスク（浸水の深さ等） ・避難場所 ●中洲学区ハザードマップの「白いところ」について確認する。 ○「白いところ」はどんなところか。 <ul style="list-style-type: none"> ・このマップでは浸水が想定される区域ではない ・白いところを目指して避難するとよい ○中洲学区の「白いところ」は具体的にどこか。 <ul style="list-style-type: none"> ・クラレ ・中洲交番 ・中洲小学校 ・四十瀬運動公園 ●本時は、「いつ」「どうやって」避難すればいいか考える学習であることを確認する。 | <p>【教材③-2 ハザードマップ（中洲学区版）】</p>  <p>（再掲）</p> |
| <p>水害から命を守るために、大切な「いつ」「どうやって」について考えよう。</p> | | |
| <p>2. 川が氾濫するまでにしておく事前の備えについて学習する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●情報を確認する際、何を使って情報を収集するとよいか確認する。 ●台風が発生してから、川が氾濫するまでに時間には余裕があることから、事前の準備ができることに気付くことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の事情（避難に時間要する方等） ・台風の大きさ、動き、今後の風や雨量 ・川の様子 ●教材を用いて、川の水が氾濫するまでの備えについて考えることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・準備をすることの順番 ・絶対にしてはいけないこと | <p>【教材②-2 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう。】</p>  |

| | | |
|---|--|--|
| <p>3. 川の氾濫が迫り、実際に避難に至るまでの判断について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●避難をするときに大切なことについて考えることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の入手:テレビ、インターネット ・持っていくもの:服装、携行品、リュック ・しておくこと:連絡、避難先と経路の確認 ●避難するタイミングについて判断することができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・タイミングを知らせるアナウンス ・「警戒レベル」の意味や備え <p>警戒レベル3で避難に時間を要する方は、避難。 警戒レベル4で、危険な場所から全員避難。</p> | <p>【教材④ 警戒レベルとは】</p>  |
| <p>4. マイ・タイムラインについて理解する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●避難するには、事前の備えや行動を計画しておくことが大切であることを理解させ、その作成に必要な要素について考えることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」避難するのか。 ・「どうやって」避難するのか。 ・どの人にも共通して知っておくことや準備しておくこと。 ・各家庭独自で知っておくことや準備しておくこと。 ●次回の活動でマイ・タイムラインを作成することを予告する。 | <p>【教材⑤-1 マイ・タイムライン作成シート(逃げキッド)】</p>  <p>【教材⑤-2 マイ・タイムライン作成のためのチェックリスト(中洲小版)】</p>  |





| | | |
|-------------------------|---|--|
| <p>5. 本時の学習のまとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 水害から命を守るためには、警戒レベルについて知り、準備物や移動の仕方などについて事前に考えておくことが大切であることを確認する。 ● マイ・タイムラインを作成する際、家庭の状況や自宅の立地状況、特別な事情などを家族と共有することにより、より自分に合った避難の仕方になることを説明し、ワークシートを用いて必要な要素について準備してくることを確認する。 | |
| <p>6. これまでの学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 事前に家庭で話し合ったり、共有したりすることが大切であることに気付くことができるようにする。 ● 事前の行動は一つではなく、その時やその場に臨機応変に行動することが大切であることに気付くことができるようにする。 | |
| <p>評価</p> | <p>風水害の際に時々刻々と出される、避難情報、防災気象情報について、情報の収集方法、情報に基づいた避難行動を考えることができる。</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】(発言・ワークシート)</p> | |


(第2時限)



第2 限目の板書計画

■第3時限

| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ | 教材解説 |
|--|---|---|
| <p>1. ここまで学習してきたことを確認し、本時のめあてをつかむ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●以下の内容について振り返りを行うことで、本時の学習内容を理解できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを確認して分かったこと。 ・避難の際の留意点、携行品、避難を開始するきっかけ。 | <p>【教材③-1 ハザードマップ(倉敷市版)】</p>  <p>(再掲)</p> <p>【教材④ 警戒レベルとは】</p>  <p>(再掲)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>マイ・タイムライン作りを通じて、命を守るために大切なことを考えよう。</p> </div> |
| <p>2. マイ・タイムラインの作成方法を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●マイ・タイムラインは、子どもだけでなく、大人も利用し、家族で共有できる記入様式になっていることを説明する。 ●「主な備え」の欄には、シールを貼ったり、備えを書き込んだりすることを説明する。 | <p>【教材⑤-1 『マイ・タイムライン』作成シート(逃げキッド)】</p>  <p>(再掲)</p> |
| <p>3. マイ・タイムラインを作成する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●台風や河川の状況、発信される情報を確認しながら、シールを貼ったり、備えを書き込んだりする。 ●適宜、チェックリストを確認してよいことを伝え、自分に合った避難の仕方を考えることができるようにする。 ●グループで、作成したマイ・タイムラインについて意見を交流することで、よりよいタイムラインを作ることができるようにする。 | <p>【教材⑤-2 マイ・タイムライン作成のためのチェックリスト(中洲小版)】</p>  <p>(再掲)</p> |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| 4. 訓練の練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 訓練手順を説明し、内容を理解できるようにする。 ● 3 日前の「台風や前線が発生」の欄を使い、「今、何をしているか。」尋ねることで、訓練の仕方について理解しているか確認を行うようにする。 | <p>【教材⑥】シナリオ</p>  |
| 5. 訓練を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な所へ移動を始めるタイミングで帽子を赤色に変えることで、自分の命を守るための行動は、人によって異なることに気づきやすくする。 ● 警戒レベル3・4が発令された時には、活動を止め、グループで「今、何をしているか。」を意見交換することにより、一人一人が自分に合った行動をすることが大切だと気付くことができるようにする。 ● タイミングと避難先（避難場所もしくは、安全な親戚・知人）は、それぞれの児童で異なる表現をすることができるという点について確認する。 | |
| 6. 訓練を振り返り、マイ・タイムラインを見直す。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 訓練を振り返り、備えを付け加えたり、シールを貼り変えたりすることで、より自分に合ったタイムラインを作ることができるようにする。 | |
| 7. 本時の学習のまとめをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 警戒レベル 3 で避難した人や、避難しなかった人に「なぜそうしたのか。」尋ねることで、命を守るための行動はそれぞれに異なり、自分で考え、判断することが大切だということを確認する。 | |
| 8. これまでの学習を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ● マイ・タイムラインは一通りではなく、災害時の状況に合わせて臨機応変に行動することが大切だということに気付くことができるようにする。 ● 本時の学習で身につけた力を生かし、自分の命を守るためによりよい方法を考えていくことが必要であることを伝えるようにする。 ● 本日作成したマイ・タイムラインを家庭に持ち帰り、家族と共有や意見の交換を行うことを促すようにする。 | |
| 評価 | <p>災害発生時に自分の命を守るために、いつ、どのようにすればよいかを考え、適切に状況を判断し、行動することができる。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力】（発言・ワークシート）</p> | |

(第3時限)

マイ・タイムライン作りを通じて、命を守るために大切なことを考えよう。 ← 「マイ・タイムライン」と呼ぶ。

計画の作成方法

- ・「マイタイムライン」の用紙に、自分がやるべきことのシールをはる。
- ・一番左側は、時間の流れになっていて、0時間が、はらんしはじめる時間・土砂災害が発生する時間。
- ・市町村、都道府県、国がそのとりに書いてあり、前の時間で学習したけいかいレベルが書いてある。
- ・そのとりに、外ではどんな状況になっているのか、イメージが書いてある。
- ・先生が状況を読上げるので、真ん中の空らん、自分がやるべきシールを選んで、はる。
- ・やることにシールに無かったら、自分で、空らんのシールに書いてから、はる。

まとめ

- ・早め早めに行動することが重要。
- ・そのためには、あらかじめ、マイ・タイムラインを作成しておくことがやくに立つ。
- ・家族と話し合い、事前に、やることを確認しておくことが大切。

第3 限目の板書計画



避難訓練開始（開始状況：白帽子は、まだ避難完了していない児童）

4.5 教材

| 教材名 | 形式 | 備考 |
|--------------------|-----|--|
| 第 1 時限で使う教材 | | |
| ①過去の災害 | 紙資料 | 平成 30 年 7 月豪雨災害の教訓に関する資料。(平成 30 年 7 月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループの資料を編集して作成。)(巻末資料-洪①) |
| ②「逃げキッド」(資料 1、2) | 紙資料 | 川の水が氾濫する仕組みについて、「逃げキッド」の資料 1、資料 2 を利用して説明する。(巻末資料-洪②) |
| ③ハザードマップ | 紙資料 | 倉敷市のハザードマップ (巻末資料-洪③) |
| 第 2 時限で使う教材 | | |
| ④警戒レベルの解説 | 紙資料 | 警戒レベルに関する説明資料(説明資料) (巻末資料-洪④) |
| ⑤マイ・タイムライン記入用紙 | 紙資料 | 風水害については、時間の経過にともない取るべき行動が変わることを確認するために使う。 (巻末資料-洪⑤) |
| 第 3 時限で使う教材 | | |
| ⑥訓練シナリオ | 紙資料 | 訓練シナリオ(読上げ原稿) (巻末資料-洪⑥) |

※「巻末資料・参考資料」の参考資料-2に災害リスクと取るべき行動の参考資料として「避難行動判定フロー・避難情報のポイント」を添付しました(警戒レベル色等は、こちらの最新の資料を参考にしてください)。

※「巻末資料・参考資料」の参考資料-3に防災啓発用の動画「(水害編)警戒レベルに関する映像資料(子供版・日本語版)」⁸を示しました。

4.6 指導を終えて

今回の授業に関係者から寄せられた意見・提案の要約については、以下のとおりです。

(成果)

洪水氾濫が発生しそうな状況の時に、自分の命を守るために、いつどのようにすればよいのかを考え、適切に状況を判断・計画(マイ・タイムラインの作成)し、訓練により強化することができました。

(課題)

- 教えたい内容が多くて、どこまで各時限(45分)でやるのか、その配分を考えるのが難しかったと思います。
- もう少し時間がとれれば、学区だけでなく倉敷市全体のハザードマップを見て特徴を押さえて、そこから分かったこと、安全なところや危険なところなどの気づいたことについて、探求していけたと思います。
- ハザードマップの全てを小学生に伝えるのは、難しいと感じました。

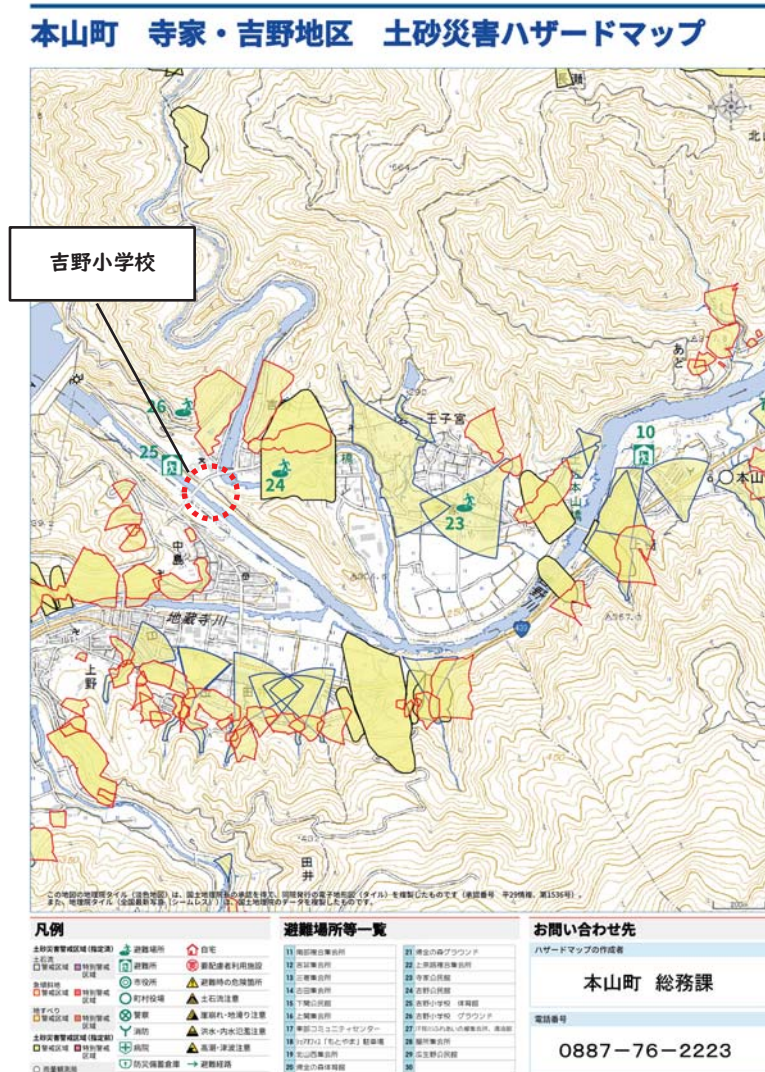
⁸ 内閣府防災担当が作成した動画
(http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html)

5. 事例その2 (高知県本山町立吉野小学校)

5.1 小学校区の水害リスク

吉野小学校は、高知県から徳島県へ流下する大河川、吉野川上流部の左岸側(早明浦ダムの近傍)にあります。

この地域は、山に囲まれた集落を形成しており、ハザードマップには、土砂災害警戒区域⁹が多く示されています。



吉野小学校位置図

⁹ 土砂災害警戒区域とは、土砂災害が生じるおそれのある区域のこと。土砂災害防止法に基づいて、土砂災害が生じるおそれのある区域に対して、土砂災害警戒区域を指定し、住民等に対する土砂災害の危険性の周知徹底を図るとともに、区域内において重点的に土砂災害防止のための警戒避難措置を講じること、土砂災害のおそれのある区域について危険の周知、警戒避難体制の整備等を実施する。また、土砂災害により建築物に損害が生じ、住民の生命に著しい危害が生じるおそれがある場合は、更に土砂災害特別警戒区域も指定し、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等を実施する。

5.2 防災教育に関する本山町の状況

本山町は、「児童生徒に対する防災教育は、児童、生徒自身の自主防災力を高めるばかりでなく、将来的に災害に強い人材を育てていくという意味でも重要である。」と位置づけ、「地震災害に関する知識を深め、地震への対応力を高めるため、各教科、総合的な学習の時間、特別活動の指導における副読本等教材・資料の作成、避難訓練、応急処置等について、児童、生徒の発達段階や保育所、学校等の実態に応じた防災教育に取り組んでいく。」ものとして、推進している状況でした（令和2年1月現在）。

5.3 学習指導案

5.3.1 単元名

「災害に備える」（総合的な学習の時間）

5.3.2 指導のねらい（高学年）

「土砂災害避難の備えシートの作成を通じて、地域で起こり得る自然災害についての災害リスクととるべき行動を知り、災害に関する情報を収集・判断し避難行動ができるようにするとともに、地域の防災に自ら関わろうとする。」

5.3.3 児童の実態

地震発生時に危険な場所や土砂災害が発生するメカニズム、注意しなくてはいけないことについて既に学習している状況でした。但し、水害や土砂災害が発生するかもしれない時に、地域社会がどのように行動し、また、自分が何をすればよいのかということについては、よく分っていないということが課題である。

5.3.4 学校区の状況

学校区の状況としては、防災マップの作成に積極的に取り組んでいることや、専門家による講義を取り入れることにより、非常に防災意識が高い状況である。また、防災マップの作成を通じて、地域住民との交流もおこなわれている。

5.3.5 指導計画

| テーマ | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 時間 |
|-----------------|--|--|----|
| 災害に備える (3時間) | <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害から命を守るための方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害が発生する過程を知る。 ・ハザードマップについて知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害の仕組みについて理解させ、避難の必要性を実感させる。 | 1 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● ハザードマップの見方を知り、避難準備行動について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害が発生する前に安全な時期に避難をすることが最良の考え方であることに気付かせ、事前の避難準備の大切さを意識させる。 | 1 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害避難の備えシート¹⁰をつくり、活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害避難の備えシートづくりをする。 ・図上訓練をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害避難の備えシートを作成する際にはどの情報をもとに考えたかを意識させる。 | 1 |

5.3.1 関連する教科書等とのつながり



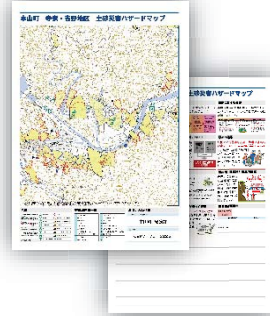
| | |
|-----|--|
| 社会科 | 【第5学年】 国土の保全と国民生活(自然条件と災害の種類や発生位置や時期) 【第6学年】 自然災害からの復旧・復興 |
| 理科 | 【第5学年】 天気の変化・流れる水の働き 【第6学年】 土地のつくりと変化 |

¹⁰ 本事例集で作成した教材のこと。(巻末資料・土⑥)

5.4 指導内容(3時限)

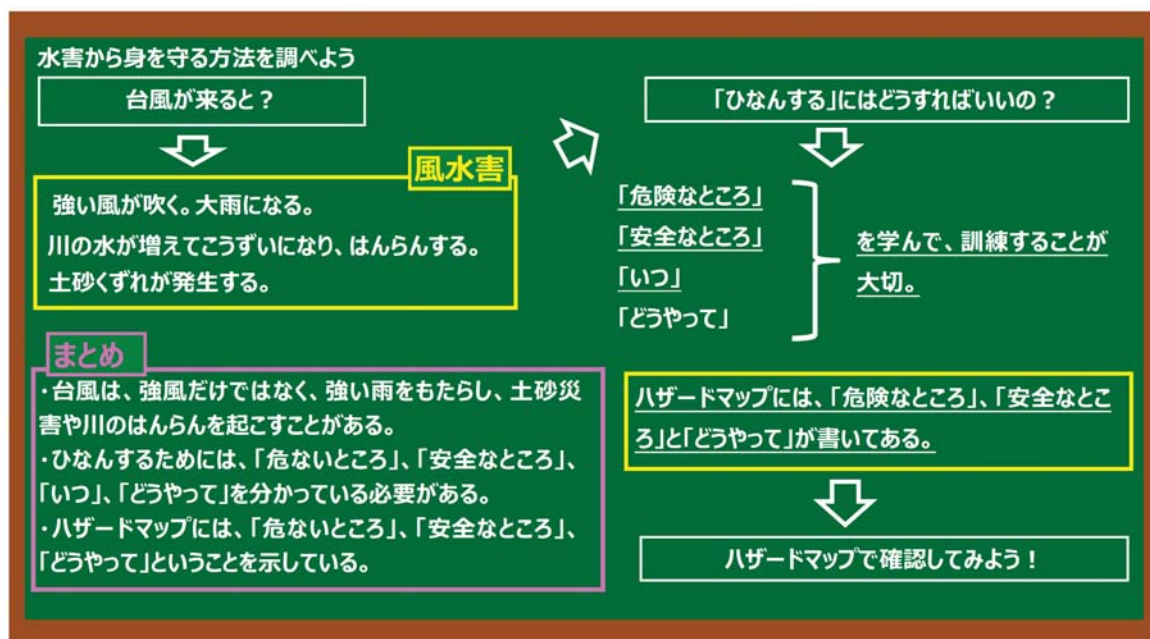
■第1時限

| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ | 教材解説 |
|---|---|---|
| <p>1. 過去の災害について知る。</p> <p>2. 避難することの重要性を知る。</p> <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>この事例は、土砂災害を対象としています が、事前に検討しておくことの重要性については、このように洪水の資料でも確認することができます。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ● 水害や土砂災害は、老若男女問わず、命の存続に直結する問題であることを認識させる。 ● 水害や土砂災害は、身近な災害であること、また、日本の地形の特性として、土砂災害に無関係な場所は少ないことを認識させる。 ● 教材②-2 及び教材②-3 を使って、水害や土砂災害からの避難の概要や、土砂災害避難の備えシートを作成する目的について紹介する。 ● 「事前の情報(ハザードマップ、気象庁の会見)があったのに逃げなかった人がいたのはなぜか?」を問いかけ、なぜ、「避難しなかったのだろうか?自分だったら避難できていたのか?」ということを考えさせる。 ● 日本の地形・気候の特性から、川や山の危険と無関係に生きていける土地はほとんどないということを説明し、水害や土砂災害から身を守る方法を勉強することが大切だと動機付けをさせる。 ● 避難するためには、「危ないところ」、「安全なところ」、「いつ」、「どうやって」ということが分かっていないと、いざという時に動けないということに気付かせる。 | <p>【教材①過去の災害】 地域の水害や土砂災害に関する資料を用意する。</p>  <p>【教材②-1 避難することの重要性】</p>  <p>【教材②-2】 (ビデオ) 台風の進路を予測して台風に備える</p>  <p>【教材②-3】 (ビデオ) マイ・タイムラインの考え方を知ろう</p>  |
| <p>水害・土砂災害から身を守るための方法を調べよう</p> | | |
| | | |

| | | |
|---|---|---|
| <p>3. 土砂災害による被害と対策について学習する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●教材③、1～2頁「土砂災害とは」を説明する。適宜、映像情報を利用し、実際の土石流の様子を説明する。 ●水害・土砂災害の起こるしくみについて説明する。 ●余裕がある場合は、どのような対策を行っているのか、3～6頁で説明する。適宜、映像情報（施設がある場合と無い場合の比較実験映像）を利用し、行政機関が行っている対策について説明する。 | <p>【教材③】 「わかる砂防教室」の「土砂災害とは」</p>  |
| <p>4. 避難する時の持ち物等を考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●教材④を使って避難する時に注意すべき事項について説明する ●避難する際の持ち物や服装について考えさせる。 ●導入で説明した「どうやって」ということについて学習しているということを確認する。 | <p>【教材④】ハザードマップの裏面を用いる)</p>  |
| <p>5. ハザードマップの見方を学ぶ。 ・自宅の位置を確認する。 ・自宅の近くの避難場所を確認する。 ・避難経路を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●教材④を使ってハザードマップの使い方を説明する。 ●ハザードマップは、災害毎に作成されているので、混同させないように説明する。 ●ハザードマップは、どこの市町村でも作成しているものだとすることを説明する。 ●地図に洪水の範囲、土砂災害が起こるかもしれない範囲を示すことにより、導入で説明した「危ないところ」、「安全なところ」を表現しているということを説明する。 ●余裕があれば、避難経路を確認し、その距離を計算させてみる。避難に必要な時間について計算させてみる（距離はマップの距離標を用いる。混雑しないところは、時速4kmで計算してみる。混雑するところは、時速2kmで計算する。）。 ●家族と一緒に避難することを想像させ、移動に時間がかかる人等がいる場合は、余裕を持って避難することが大切だということを伝える。 | <p>【教材④】 ハザードマップを用いる</p>  |

| | | |
|--|--|--|
| <p>6. 本日の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風は、強風だけではなく、強い雨をもたらし、土砂災害や川の氾濫を起こすことがある。 ・避難するためには、「危ないところ」、「安全なところ」、「いつ」、「どうやって」ということが分かっている必要がある。 ・ハザードマップには、「危ないところ」、「安全なところ」、「どうやって」ということを示している。 | <ul style="list-style-type: none"> ●以下を確認する。 (家族と話し合い) ・準備することを確認する。 (避難場所まで歩いてみて) ・避難する際に危ない場所はないか確認する。 ・避難するまでにどれくらいの時間が必要なのか確認する。 | |
| <p>7. 次時の学習について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●次回は、「いつ、避難するべきか」について学ぶことを知らせる。 | |

(第1時限)

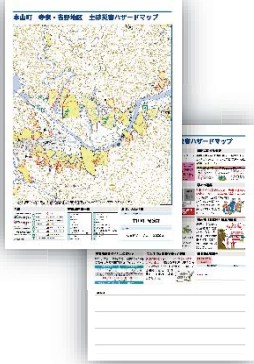

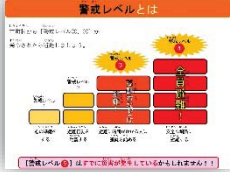



第1限目の板書計画



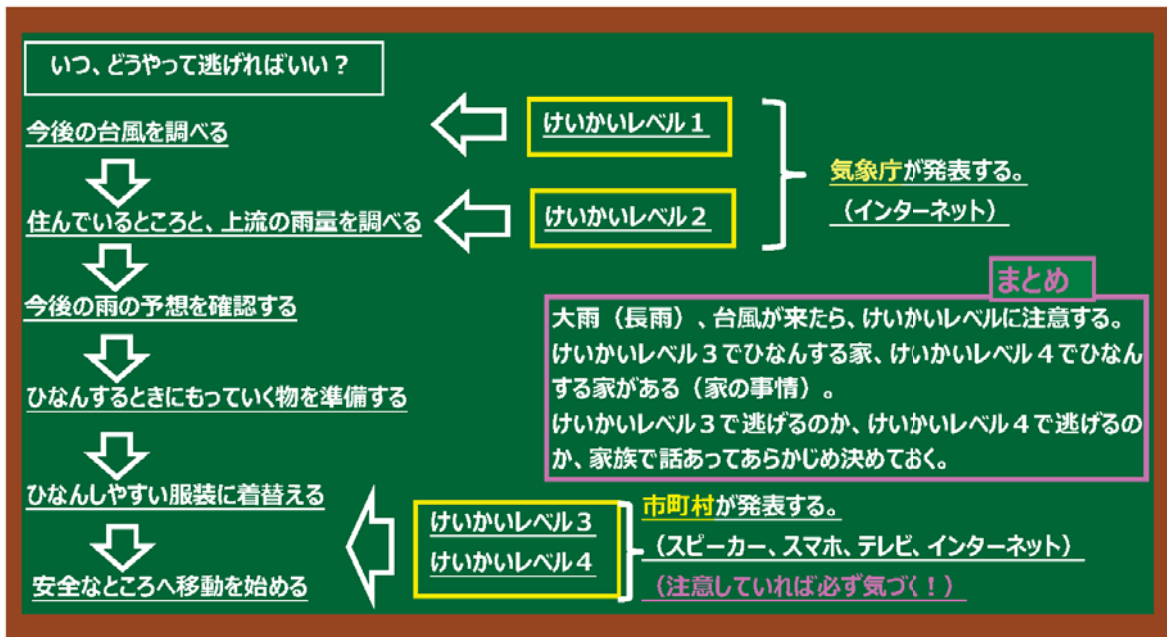
ハザードマップを使って、自分の家や避難場所の確認

■第2時限

| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ | 教材解説 |
|-----------------------------------|--|--|
| <p>1. 前回の学習を振り返り、本時の学習について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 前回は、「危ないところ」、「安全なところ」、「どうやって」を学んだことを説明する。 ● ハザードマップについて家族と話し合ったかどうかを確認する。 ● 警戒レベルという言葉をどの程度知っているかを確認する。 | <p>【教材④】 ハザードマップを用いる</p>  <p>(再掲)</p> |
| <p>「いつ、どうやって逃げればいい？」</p> | | |
| <p>2. 土砂災害の際の注意点、前兆現象について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害は、前兆現象がある場合もあることを確認する。 | <p>【教材③】 「わかる砂防教室」の「砂防災害から身を守るために」</p>  |
| <p>3. 警戒レベル毎に自分が何をすべきか考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 避難をするタイミングは、アナウンスがあることを説明する。 ● 警戒レベル 3 もしくは 4 が出たら、避難開始である。従って、準備は、警戒レベル 1~2 の時にしておくことが大切であることを説明する。 ● 家族の中に高齢者、障害のある方、乳幼児がいる場合は、警戒レベル 3 で避難を開始することを説明する。 ● 警戒レベル 4 になったら、全員が避難することを説明する。 | <p>【教材⑤】 警戒レベルの解説</p>  |

| | | |
|--|--|---|
| <p>4. 「いつ」避難するのかについての理解を深める。 ・教材の利用方法について説明する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●全員が同じ回答になるということではないということを最初に確認する。 ●本日は、土砂災害避難の備えシートの内容の確認に留め、次回の授業で作成することを伝える。 | <p>【教材⑥】 土砂災害避難の備えシート</p>  |
| <p>5. 本時の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○警戒レベル 2 で避難行動の確認を行う。(避難の際にもっていく物、避難先(避難場所や安全な親戚や知人宅)の確認を済ませておく。 ○警戒レベル 3、もしくは、4 で避難を開始する。 <p>○レベル毎にやるべきことを予め決めておくことが大切である。</p> | | |
| <p>6. 次時の学習について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●次の時間は、整理した内容に基づいた土砂災害避難の備えシートの作成と訓練を行うことを知らせる。 | |

(第2時限)

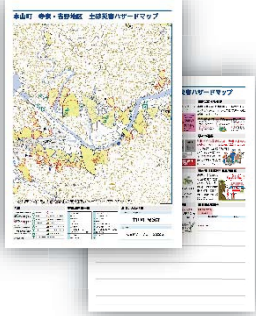
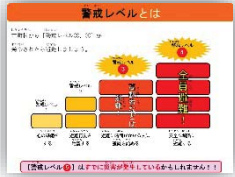





第2 限目の板書計画



土砂災害の際の注意点や前兆現象を説明

■第3時限

| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ | 教材解説 |
|--|---|---|
| <p>1. これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハザードマップの読み方と自分が普段いるところの危険性や安全な場所。 ●土砂災害から避難する際に注意すること。 ●警戒レベル毎に自分がやるべきこと。 | <ul style="list-style-type: none"> ●避難するために必要な、「危ないところ」、「安全なところ」、「いつ」、「どうやって」を、学習してきたことを振り返り説明する。 | <p>【教材④】 (本山町の場合は、ハザードマップを用いる)</p>  <p>(再掲)</p> <p>【教材⑤】 警戒レベルの解説</p>  <p>(再掲)</p> |
| <p>いつ、どうやって逃げればいいのか、自分の計画を作ろう!</p> | | |
| <p>3. 土砂災害避難の備えシートの作成方法(様式並びに作成方法)を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●土砂災害避難の備えシートは、家族で共有するため、大人も利用できる記入様式になっていることを説明する。 ●「わが家の備えを考えよう」の欄には、シールを貼って、回答を作成する。但し、シール以外の回答を行いたいときは、余白に自由に記載してよいことを説明する。 ●「備え・行動の例」も参考にしてよいことを補足で説明する。 | <p>【教材⑥】 土砂災害避難の備えシート</p>  <p>(再掲)</p> |

| | | |
|---|--|--|
| <p>4.練習する。 練習として、3日～1日前の「我が家の備えを考えよう」の欄を使って、作成手順について理解しているか、確認を行う。</p> | <p>●適宜、「逃げキッド」のチェックシート並びに資料2に記載した内容を確認してよいことを伝える。</p> | |
| <p>5.訓練を実施する。 以下のとおり、1日前から土砂災害が発生するまで時系列に沿って教師が状況を説明する。時系列に沿って状況の変化を説明し、そのタイミングで各自が実施すべき事項をシールの中から選択し、様式に貼る。土砂災害避難の備えシートを作成することにより探求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風の発生。 ・台風が近づいて、雨がだんだん強くなる。 ・地盤が緩み、土砂が崩れやすい状況になる。 ・土砂災害が発生する。 | <p>●自身で土砂災害避難の備えシートを作成することにより、台風や大雨の状況に応じてとるべき行動について理解する。</p> <p>●状況説明毎にシールを貼る時間を取る。</p> <p>●シール以外にも気づいた点等、記載させる。</p> | <p>【教材⑥】 土砂災害避難の備えシート</p>  <p>(再掲)</p> <p>【教材⑦】シナリオ</p>  |
| <p>6.本時の学習を振り返る。 ・本時の学習で気が付いたことや、家に帰ってから家族と話すべきこと、感想等について発表する。</p> | <p>●他者の意見を確認しながら、考えを深めるとともに、家庭に帰ってから、この取組を両親や兄弟に説明すること(その効果)について考えさせてみる。</p> | |
| <p>○避難をするためには、「危険な場所」、「安全な場所」、「いつ」、「どうやって」ということを確認しておくことが必要である。</p> <p>○ハザードマップと警戒レベルにより、「危険な場所」、「安全な場所」、「いつ」、「どうやって」を確認することができる。</p> <p>○訓練を行うことで、確実に避難できるようになる。</p> | <p>●今後に向けて、風水害からの避難の学習については、これで終わりではなく、この他にも防災気象情報に対する理解や、要配慮者や避難行動要支援者の避難の取組、災害発生の可能性を低くするための様々な対策等、これから多くを学んでいく必要があることを説明する。</p> | |

(第3時限)

いつ、どうやって逃げればいいのか、自分の計画をつくろう！



「土砂災害避難の備えシート」と呼ぶ。

計画の作成方法

- ・「土砂災害避難の備えシート」の用紙に、自分がやるべきことのシールをはる。
- ・一番左側は、時間の流れになっていて、0時間が、土砂災害が発生する時間。
- ・市町村、都道府県、国がそのとなりに書いてあり、前の時間で学習した**けいかいレベル**が書いてある。
- ・そのとなりに、外ではどんな状況になっているのか、イメージが書いてある。
- ・先生が状況を読上げるので、真ん中の空らんに、自分がやるべきシールを選んで、はる。
- ・やることにシールが無かったら、自分で、空らんのシールに書いてから、はる。

まとめ

- ・早め早めに行動することが重要。
- ・そのためには、あらかじめ、土砂災害避難の備えシートを作成しておくことがやくに立つ。
- ・家族と話し合い、事前に、やることを確認しておくことが大切。

第3 限目の板書計画



土砂災害避難の備えシートを作成

5.5 教材

| 教材名 | 形式 | 備考 |
|-------------------|------|---|
| 第1 時限で使う教材 | | |
| ①過去の災害 | 紙資料 | 平成30年7月豪雨災害の教訓に関する資料(平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループの資料を編集して作成。) (巻末資料-土①) |
| ②-1 避難することの重要性 | 紙資料 | 「危ないところ」「安全なところ」「いつ」「どうやって」を理解しよう (巻末資料-土②-1) |
| ②-2 避難することの重要性 | 映像資料 | 「台風の進路を予測して台風に備える」(3分30秒) (巻末資料-土②-2) |
| ②-3 避難することの重要性 | 映像資料 | 「マイ・タイムラインの考え方を知ろう」(4分18秒) (巻末資料-土②-3) |
| ③「わかる砂防教室」 | 紙資料 | 土砂災害とはどのような現象を指すのか説明 (巻末資料-土③-1) |
| ③土砂災害の映像 | 映像資料 | 土石流(岐阜県神通川水系白谷)90秒.wmv 土石流(長野県焼岳上々堀沢)48秒.wmv 土石流(長野県木曾川滑川)51秒.wmv (巻末資料-土③-2) |
| ③砂防施設の効果 | 映像資料 | 砂防堰堤の効果実験.wmv (巻末資料-土③-3) |
| ④ハザードマップ | 紙資料 | 各地域のハザードマップを利用する。 「ハザードマップポータルサイト (https://disaportal.gsi.go.jp/)」から入手することができる。 本山町ハザードマップ(寺家・吉野地区) (巻末資料-土④) |
| 第2 時限で使う教材 | | |
| ⑤警戒レベルの解説 | 紙資料 | 警戒レベルに関する説明資料 (巻末資料-土⑤) |
| ⑥土砂災害避難の備えシート記入用紙 | 紙資料 | 水害や土砂災害については、時間の経過にともない取るべき行動が変わることを確認するために使う。 (巻末資料-土⑥) |
| 第3 時限で使う教材 | | |
| ⑦訓練シナリオ | 紙資料 | 訓練シナリオ(読上げ原稿) (巻末資料-土⑦) |

※「巻末資料・参考資料」の参考資料-2に災害リスクと取るべき行動の参考資料として「避難行動判定フロー・避難情報のポイント」を添付しました(警戒レベル色等は、こちらの最新の資料を参考にしてください)。

※「巻末資料・参考資料」の参考資料-4に防災啓発用の動画「(土砂災害編)警戒レベルに関する映像資料」¹¹を示しました。

¹¹ 内閣府防災担当が作成した動画(今後、内閣府ホームページで公開予定
(http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html))

5.6 指導を終えて

今回の授業に関係者から寄せられた意見・提案の要約については、以下のとおりです。

(成果)

土砂災害が発生するような状況の際に、自分の命を守るために、いつどのようにすればよいのかを考え、適切に状況を判断・計画し、訓練により強化することができました。

(課題)

- 小学校 6 年生は、理解した上で、土砂災害避難の備えシートを作成していたと思いますが、5 年生は、十分理解できないまま、感覚で行動を選択して、土砂災害避難の備えシートの作成を進めていたかもしれないという危惧があります。
- 今回、教師 2 人体制で進められたのは良かったと思います。一人ではかなり忙しかったと思います。
- 土砂災害避難の備えシートには、シールを貼ると、剥がせないという心配があったので、シール以外の素材のものも用意しました。試しに置いてみてから、考えることができたので、有効だったと思います。

6. 今後の課題

今後、地域特性の異なる市町村での事例についても、取り組んでいく必要があります。

特に、学習指導計画を作成する際に、難しいと考えられる、洪水氾濫と土砂災害の両方に配慮する学校区や、広域避難や垂直避難について示していく必要がある都市部での事例研究について取り組んでいくべきだと考えます。

以上